

教育長 殿

宮城県中新田高等学校
校長 吉田 玲子 印

令和元年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- ① 生徒の基礎的な学力を定着させ、主体的に自立した学習ができるように支援する。
 ② 生徒の規律ある学校生活を支援する。
 ③ 主体的な進路選択と進路目標が達成できるよう支援する。
 ④ 学業と部活動等の両立を支援する。
 ⑤ 信頼される学校づくりを推進する。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 校内研究の充実と授業研究を実施して、教師の授業力向上を図るとともに、既習内容を確認できる学習課題を意図的に与えながら、家庭学習の習慣化を働きかける。	C	校内の授業研究を充実させるために、全ての教職員が授業に参観し、合評会に参加できるように分科会形式で合評会を実施した。また、曜日ごとに主要5教科で学習課題を課している。しかし、生徒が主体的に家庭学習に取り組むまでには至らない。生徒の学習意欲の喚起を教職員が意識して取り組んでいきたい。	A	A
	② 活用できるシラバスを発行し、具体的な計画のもとに授業を行うとともに、生徒の自発的学習を促す。	C	シラバスに記載した計画に基づき授業を行っているが、自発的な学習には至っていない。新たな観点「主体的に学習に取り組む態度」を生徒が自己評価できるシートをシラバスに追加する準備を進める。	A	A
	③ 実力テストやスタディーサポート、「みやぎ学習状況調査」などを活用し、生徒の学力・学習習慣を分析し、より効果的な学習指導を目指す。	B	各種テストを分析し、結果を教職員で共有している。効果的な学習指導につなげられるように今後も継続していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	家庭学習の定着については、小学校低学年からの意識付けが必要なため家庭の協力が大きい。生徒の学習に対する自主性を高める工夫が必要である。				
生徒指導	① 生徒指導部・各学年・担任との緊密な連携のもと、基本的生活習慣の確立や生徒会・委員会活動・部活動等の活性化を図り、全職員が協力し充実した高校生活を送らせる。	B	学校評価の結果から基本的生活習慣、他分掌や各学年との連携など、昨年度に比べて生徒や保護者からは高い評価を得た。職員に対してもより一層、仕事を見える化していきたい。部活動についても活性化している状況であり、次年度も継続的に進めていきたい。	A	A
	② 生徒の心身の健康管理に努め、病気を予防する態度を養い、生活環境の整備と健康増進及び保持について推進する。	B	生活環境の整備については、より一層の改善が必要である。心身の健康管理については、基本的生活習慣と連携する部分が多く、季節に応じて指導を徹底していく。	A	A
	③ 生徒が相談しやすい環境作りといじめ防止に向けた積極的生徒指導への取組や組織的な対応を図る。	B	教育相談体制は整っており、SCやSSWによるカウンセリングも充実してきている。不登校傾向にある生徒の改善について重点的に進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	挨拶については生徒に求める前に、親や教職員等の大人が見本を示すべきである。部活動や学校行事においては、生徒自ら主体的に取り組む雰囲気作りをお願いしたい。				

進路指導	① システム手帳を活用し、PDCAサイクルを身につけさせ、時間管理能力や目標設定能力、計画実行能力を向上させる。	C	システム手帳は、3年生の進路指導等に利用されているが、1・2年生においては積極的に活用されていない状況がある。本来の目的を教職員が再認識し、各学年で指導の徹底を図り活用させていきたい。	A	A
	② 就職及び進学を支援する校内体制を充実し、進路希望達成100%を目指す。	B	3学年の進学小論文において、指導担当者と生徒間で密に情報交換を図り指導方法を検討していきたい。進路達成が困難と思われる生徒については、1・2年生のうちから学年・進路指導部で指導方法を検討していく。	A	A
	③ 進路指導の内規を徹底し、出願事務及び校内推薦会議等の円滑な実施を図る。また、進路講話や出前講座等を実施し、多様な進路について理解させ、進路ノートの計画的活用を図る。	A	出願事務及び推薦会議等は問題も無く円滑に実施することができた。進路講話や出前講座等の進路行事も予定通りに実施し、生徒の様子から大きな成果を得たと考えられる。進路ノートについては、学年の発達段階に合わせた内容に改善していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	進路についてそれぞれの家庭でもっと話し合い、学校任せにしないようにするべきである。また、地域や企業とのコミュニケーション不足を感じるので、教職員全員が意識を高くもって関係づくりに積極的に取り組むべきである。				
地域に開かれた学校づくり	① 「中高だより」、ホームページ、PTAだより、学校公開等により、保護者・地域・近隣小中学校に本校の教育活動の様子を積極的に発信し、理解と協力を得られるようにする。	B	学校だよりやPTAだより、学校公開等について計画通り実施し、学校からの情報発信を意識してと組んだ。生徒や保護者からは高い評価を得たが、ホームページの更新頻度を上げて、タイムリーな情報提供できるように改善していきたい。	A	A
	② 加美町研究・インターンシップ・ボランティア活動などにおいて地域の教育力を活用し、主体的に地域にかかわる態度を育む。	B	加美町研究やインターンシップ、初午祭りでのボランティア、鍋祭りでの出展参加等、地域と連携し積極的に活動した。活動を継続しながら生徒の主体性やリーダー性、企画力等を育てていきたい。	A	A
	③ 魅力ある県立学校づくり支援事業や金融教育協議会事業を活用し、活動を通して協働性や自己有用感、肯定感を高める。	B	外部講師を招聘して生徒に講話を聞かせたり、研究成果の発表会では生徒のが主体となって発表する場面を設定したりして、自己有用感が共同性を育む事業展開ができた。次年度も様々な仕掛けを通して生徒の成長を促していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	地域に根付いた学校になるよう地域住民は期待している。SNS等を活用して、適切に積極的に情報発信をお願いしたい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 教育課程を見直す。	新学習指導要領に合わせて、教育課程を見直す必要がある。校訓や学校教育目標の達成を目指して、授業やカリキュラム及び評価の在り方を検討する。
③ 特別指導の皆無と不登校生徒の削減を目指す。	平日頃から教職員が生徒を十分に観察し、生徒の変化に早く気付く、十分に話を聞きながら早期に対応していく。保護者との連携を密にして、担任を中心とした組織的な対応で未然防止に取り組む。
③ ホームページの活用を図り、学校からの情報発信の機会を増やす。	部活動の各種大会・コンクールの結果や諸連絡のみに留まらず、各種たよりや行事の様子などを積極的に掲載し、本校の様子を地域の方々にも深く知る機会を増やす。